

驚愕の美の世界、圧巻の結末——
 伝統を凌駕した感動巨編、熊川版「白鳥の湖」今秋開幕!

K-BALLET

TBS

Tetsuya Kumakawa
K-BALLET COMPANY
Autumn Tour 2013

Production/Additional Choreography Tetsuya Kumakawa
 [演出・再振付] 熊川哲也

Original Choreography Marius Petipa / Lev Ivanov
 [原振付] マリウス・プティパ/レフ・イワノフ

Music Peter Ilyich Tchaikovsky
 [音楽] ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

Set and Costume Design Yolanda Sonnabend / Leslie Travers
 [舞台美術・衣装] ヨランダ・ソナベンド/レズリー・トラヴァース

Lighting Design Hisashi Adachi
 [照明] 足立恒

6月29日(土)
 発売開始!
 (東京・神奈川)

	[東京] 東京文化会館 大ホール			[横浜] 神奈川県民ホール	
日程 開演/開演	10/18(金) 18:00/18:30	10/19(土) 13:30/14:00	10/20(日) 13:30/14:00	10/26(土) 13:30/14:00	
料金(税込)	S席 ¥18,000	S席 ¥12,000	S席 ¥18,000	S席 ¥18,000	
	A席 ¥14,000	A席 ¥10,000	A席 ¥14,000	A席 ¥14,000	
	B席 ¥10,000	B席 ¥8,000	B席 ¥10,000	B席 ¥9,000	
	C席 ¥8,000	C席 ¥6,000	C席 ¥8,000	C席 ¥7,000	
ジークフリード	熊川哲也	遅沢佑介	熊川哲也	熊川哲也	
オデット/オデイル	荒井祐子	浅川紫織	荒井祐子	佐々部佳代	
ロットバルト	S・キャンディ	杉野 慧	S・キャンディ	S・キャンディ	
会場	[東京] Bunkamura オーチャードホール				
日程 開演/開演	10/31(木) 13:30/14:00	11/1(金) 13:30/14:00	11/2(土) 13:30/14:00	11/3(日・祝) 13:30/14:00	11/4(月・休) 13:30/14:00
料金(税込)	S席 ¥18,000	S席 ¥18,000	S席 ¥16,000	S席 ¥18,000	S席 ¥16,000
	A席 ¥14,000	A席 ¥14,000	A席 ¥12,000	A席 ¥14,000	A席 ¥12,000
	B席 ¥10,000	B席 ¥10,000	B席 ¥9,000	B席 ¥10,000	B席 ¥9,000
			C席 ¥7,000	C席 ¥10,000	C席 ¥7,000
ジークフリード	熊川哲也	熊川哲也	宮尾俊太郎	熊川哲也	宮尾俊太郎
オデット/オデイル	荒井祐子	佐々部佳代	N・アナニアシヴィリ	荒井祐子	N・アナニアシヴィリ
ロットバルト	S・キャンディ	S・キャンディ	遅沢佑介	S・キャンディ	遅沢佑介



熊川哲也



ニーナ・アナニアシヴィリ



荒井祐子



浅川紫織



宮尾俊太郎



遅沢佑介



荒井祐子

指揮: 福田一雄 / 井田勝大
 演奏: シアター オーケストラ トーキョー
 [公演に関する詳細]

http://www.k-ballet.co.jp/

<その他の全国公演>

- [福岡] 10/22(火) 福岡サンパレスホテル&ホール
- [名古屋] 11/7(木) 愛知県芸術劇場 大ホール
- [大阪] 11/9(土)・10(日) フェスティバルホール
- [札幌] 11/14(木) ニトリ文化ホール
- [仙台] 11/19(火) 東京エレクトロンホール宮城

主催: TBS/Bunkamura (オーチャードホール公演のみ)

神奈川芸術協会 / 神奈川県民ホール (横浜公演のみ)

特別協賛: ONWARD 株式会社オンワードホールディングス

協賛: Chacott チャコット株式会社 オフィシャルエアライン: ANA

制作: K-BALLET COMPANY / TBS

※キャスト予定は2013年6月1日現在です。出演者の病気や怪我等、やむを得ない事情により変更となる場合があります。最新のキャスト情報はhttp://k-ballet.co.jp/companyにてご確認ください。なお、公演中止の場合を除き、実施するすべての公演に関して、主演者をはじめとするキャスト変更に伴うチケット代金の払い戻し、公演日や券種の変更は原則としてお受けできませんので、あらかじめご了承ください。◎公演中止の場合の振替、チケット送料等の補償はいたしかねます。◎未就学児童の入場はできません。10/19(土)、11/2(土)、4(月・休)、10(日)公演のみ、5歳以上の入場が可能です。但し、お席は必要です。◎演出上開演後の入場は制限させていただく場合があります。

Photographs by Hidemi seto/Shunki Ogawa/Jin Kimoto/Asuna Gomli/Nancy Ellison



ONWARD PRESENTS

Tetsuya Kumakawa **K-BALLET COMPANY**
Autumn Tour 2013

白鳥の湖

熊川哲也 Kバレーカンパニー

[芸術監督] 熊川哲也

若き新鋭たちによるジュニア・カンパニー旗揚げ公演
Kバレー ユース 第1回記念公演『白鳥の湖』
 2013年8月3日(土) 17:00開演、4日(日) 14:00開演 チケット絶賛発売中!
 Bunkamura オーチャードホール

2003年の誕生以来、Kバレエカンパニーの躍進と発展を象徴する代表レパートリーとしてその名を轟かせてきた熊川版『白鳥の湖』。伝統への揺るぎない敬意のもと、現代を生きる古典のあるべき姿を追求し、新たな可能性をも切り拓いた本プロダクションは、〈バレエの代名詞〉たる名作の魅力を稀にみる完成度で描き切った一大傑作として、絶対的評価を獲得している。バレエダンサーとして、また芸術監督として、やむことない深化を続ける熊川哲也自身にとってもまた、『白鳥の湖』とはバレエ芸術に携わる自己の「内奥との対話」であり「常に共に在るべき究極の一作」であるという。本公演では、そんな熊川が踊るジークフリードを筆頭に、カンパニーを代表するダンサーへと成長を遂げた宮尾俊太郎のパートナーとして、世界を魅了し続ける永遠のプリマ、ニーナ・アナニアシヴィリの出演も決定！



2003年に初演された熊川哲也演出・再振付『白鳥の湖』はKバレエカンパニーにとって記念碑的作品である。キャラクター一人ひとりの個性を浮き彫りにしてストーリーを明確に伝える演出、独自の美意識に貫かれた豪華な舞台美術と衣裳……古典を現代の視点から洗い直し、新たな生命を注ぎ込む熊川の手法がはっきりと確立したのがこの『白鳥の湖』だった。以後『 Coppélia 』、『ドン・キホーテ』、『くるみ割り人形』、『海賊』、『ロミオとジュリエット』、『シンデレラ』と、数々の傑作が世に送り出されてきた。「バレエを大事にすればするほど、『白鳥の湖』の重要性が自分の中で増してきている」そう熊川は言う。バレエへの愛は『白鳥の湖』への愛に等しいのだ、と。「冒頭のオーボエの響きを聴いただけでも、詩情がそこに浮かぶ。バレエの要素をすべて兼ね備えているでしょう？ 物語やそこに付随する情景すべてがある。ダンサーたちは『白鳥の湖』によって生かされているんだと思う。自らも『白鳥の湖』というバレエに包まれて居

心地の良さを感じているという熊川。「先人たちへのリスペクトが増し、彼らの偉業を知れば知るほど価値観が変わってきた。今は目に見えない偉人たちの視線につねにさらされている気持ちです。今度の舞台にも、僕の人生経験と先人への想いの化学反応が現れることになるでしょう」熊川演じるジークフリードの変貌も楽しみだが、ニーナ・アナニアシヴィリの客演も大きな話題だ。ポリショイバレエ、ABTで活躍し、今は母国でグルジア国立バレエを率いるスター・バレリーナ。立場を同じくするニーナと熊川は今年のローザンヌ国際バレエ・コンクールでともに審査員を務めた。「ヴァイタリティにあふれ、新しいことにチャレンジしたい、新しい環境に身を置きたいという意欲がある。少女のように綺麗な瞳でそう語られて、ぜひうちの宮尾俊太郎と踊ってもらおうと思った」デュランテ、マルケスははじめ、これまでKバレエカンパニーが招いてきたのは、熊川と同じ英国

さらなる円熟の極みにある今だからこそ踊る熊川のジークフリード、
世界が愛したアナニアシヴィリが舞う絶世のオデット/オディール——
豪華キャストで贈る
熊川版グランド・バレエ決定版！

の伝統で育ったバレリーナが多かった。しかし、ニーナは生粋のロシア派バレリーナ。かなり意外な感じがするが、熊川は今ロシア・バレエに強く惹かれているのだという。「現実には不可能なことを見せようとするバレエの世界で、物語のすべてを細部に至るまで説明しすぎてしまうことに疑問を持つようになってきた。そういう意味において、今はロシアの表現に心惹かれます。ロシアの芸術性の高さや伝統の素晴らしさに改めて感銘を受けているところです」演劇性に重きを置く英国バレエの良さを十二分に吸収した熊川が、その伝統を生かしつつ新たにロシアの風を取り入れようとしている——「Kバレエカンパニーの歴史はその第1章を終え、いま新たな第2章の扉を開こうとしている。ここではこれまでの演劇性に加えて、より精神性が強められていくことになるだろう」と熊川は語る。その第2章がこの『白鳥の湖』から始まる。

文：浜野文雄（新書館『ダンスマガジン』編集委員）

熊川哲也 (ジークフリード)
10/18(金)・20(日)・26(土)・31(木)
11/1(金)・3(日・祝)

荒井祐子 (オデット/オディール)
10/18(金)・20(日)・31(木)・11/3(日・祝)

佐々部佳代 (オデット/オディール)
10/26(土)・11/1(金)

宮尾俊太郎 (ジークフリード)
11/2(土)・4(日・休)

ニーナ・アナニアシヴィリ (オデット/オディール)
11/2(土)・4(日・休)

遅沢佑介 (ジークフリード)
10/19(土)

浅川紫織 (オデット/オディール)
10/19(土)

